


II 具体的な取組

1 考え、議論する道徳授業

(1) 授業構想ワークシート（大仁中学校事例）



道徳授業を創造する際に最も大切なのは授業者の「明確な指導観」である。扱う道徳的価値について授業者が日頃どのような思いをもっているのか、それについて目の前の児童生徒に何を考えさせたいのか、そのために扱う教材のどこで考えさせるのかなど、授業を構想するために本校では以下のシートを活用している。

■ 1年内容項目「国際理解」より授業構想シート活用例  指導過程の工夫

考え議論する道徳授業の創造

～明確な指導観に基づく授業構想シート～

伊豆の国市立大仁中学校

授業者の価値観	授業者の価値観	ねらいとする道徳的価値(内容項目)について、改正学習指導要領に基づき指導者が明確な考えをもつ
	Ex.これから社会に出て活躍する子どもたちには広い視野で国際理解を深めていくことが必要だと日頃から感じている。	
生徒観	ねらいとする道徳的価値について関わる指導を様々な場面で رفتり、全体計画の別業等でこれまで各教科等でどのような学びがあったのかを確認したりする。	
	良さ	Ex.メディアを通して諸外国の出来事や情報について多くの知識を得る機会をもっている。
	課題	Ex.日頃、外国人と接する機会が少なく、国際的な視野が広がっていない。
	考えさせたいこと	文化や生活習慣の違いに出くわした時、どうすればよいかかんがえさせながら、世界の人々との関わり、異文化への理解を深める機会を得ることの大切さを考えさせたい。 
教材観	教材吟味	子どもたちが共通の状況におかれることで、共に多様な感じ方や考え方について学ぶことができる
	指導の工夫	<p style="text-align: center;">発問構成・工夫・意図(価値理解・人間理解・他者理解)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> Ex.【価値理解】・国際理解をすることは大切なんだな。 【人間理解】・大切なのはわかるけど、外国の人と触れる機会も少ないし、難しいよ。 【他者理解】・国際理解は大切だから、これから外国の人とふれ合いながら異文化を理解してみたいな。 ・外国の人と触れ合う機会があったら異文化を受け入れて、自分たちの国の文化も積極的に発信して交流してみたいな。 </div> <p style="text-align: center;">資料をみて決めず、授業の山場をどこにするか考え、指導者の思いに叶った中心発問</p>
	中心発問	一面的な見方を多面的・多角的な見方へと発展させる。 
	主題名	
内容項目	振り返りの発問は、A（主として自分自身に関すること）、B（主として人との関わりに関すること）、C（主として集団や社会との関わりに関すること）、D（主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること）の視点を大切にします。	
ねらい	児童生徒個々の道徳的価値の成長を捉える。	
評価	本時のねらいとする道徳的価値への実践意欲を高める ●道徳ノート・ファイルの活用 ●個人内評価	

学習への集中を図る。道徳的価値に意識を向ける。主題に対する興味・関心を高める。

- 事前アンケートの活用
- 「私たちの道徳」の活用

ねらいとする道徳的価値に関わる、これまでの児童生徒の学びとその結果(よさと課題)を明確にする。

児童生徒の実態と資料の特質を押さえた発問構成を工夫する。
ねらいに迫るための具体的な手立てを記述する。
明確な価値観、本時の方向性をもとに、教材の活用の仕方を明らかにする。

[内省]
体験を通して感じたことや考えたこと、また日常の具体的な経験など。資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止めて、深く自己を見つめることが可能になる発問を工夫する。
(自我関与)

- 話し・GT・写真・ビデオ
- 「私たちの道徳」の活用(読む・書く)

最もねらいが達成できる多様な考え方、感じ方に会い交流する。

- 動作化や役割演技
- 話合いの座席
- ペア・トリオ・カルテット・グループ
- 意思表示の確認(視覚化)
- 山場のある板書・動きのある板書・まとめ書きの活用
- ICT機器の活用